



アイビー動物病院長
(射水市戸破)

宮川 慎

今年も昨年同様猛暑が続いてお
ります。過去の本連載でも紹介さ
れましたが、最新のデータが発表
されていますので改めてダニの話
をします。

夏はマダニの活動が活発になる
季節です。キャンプや登山、河川
敷でのレジャーだけでなく、普段
のお散歩や公園、草むらなど身近
な場所でもマダニに刺される可能
性があります。犬や猫だけでなく、
人も感染症にかかる恐れがあるた
め、この時期は特に注意が必要で
す。

マダニが媒介する感染症の中で

マダニに注意！



感染症を媒介する
マダニ

も、近年特に注目されているのが
SFTS（重症熱性血小板減少症
候群）です。SFTSはウイルス
感染症で、人や犬・猫などの動物
は、SFTSウイルスを保有する
マダニに刺されることで感染しま
す。感染すると、発熱や食欲低下、
元気消失、嘔吐、下痢などの症状
がみられ、重症化すると命に関わ
ることもあります。また、感染し
た犬や猫との濃厚な接触により、

犬・猫には予防薬を

人へ感染した事例も報告されてい
ることから、獣医療の現場でも注
意が呼びかけられています。

富山県衛生研究所が2019、
24年に実施した野生イノシシの調
査では、SFTSウイルスに対す
る抗体を持つイノシシが県内各地
で確認され、その割合も増加する
傾向が報告されています。これは、
SFTSウイルスが野生動物の間
で広く循環していることを示唆す
る結果であり、私たちの生活圏に
も感染リスクが存在することを示
しています。特に県西部や石川県
との県境周辺では陽性例が多く確
認されており、屋外で活動する機
会が多い方や、散歩で草むらを利用
する犬は注意が必要です。

マダニ対策としては、草むらや、

やぶに入る際は長袖・長ズボン
を着用して肌の露出を避けること、
屋外活動や散歩の後には人もペッ
トもマダニが付着していないか確認
することが大切です。また、犬や
猫には動物病院で処方・推奨され
るマダニ予防薬を継続して使用す
ることが、感染予防につながりま
す。

愛犬・愛猫をマダニから守るこ
とは、ご家族の健康を守ることに
もつながります。この機会に、マ
ダニ予防を見直してみませんか。
予防薬の選び方や使用方法につい
てご不明な点がありましたら、お
近くの動物病院にご相談くださ
い。

毎月第1土曜掲載